

《第4回》研究会レポート

<概要>

1. 日時 : 2006年1月21日 (土) 10:00 ~ 12:20
2. 場所 : 株式会社ダスキン
3. 出席者 : 学校関係者 8名(小学校 3名、中学校 3名、教育委員会 2名)
4. タイムスケジュール

時間	内容
10:05	はじめに
10:15	学校の掃除関連書籍“自問清掃”紹介
10:25	事例紹介 掃除教育全校取り組み実施校(豊津第一小学校)
10:25	ディスカッション
	テーマⅡ: 学校掃除を通して「段取り力」を身につける具体的手法とは
	2. 段取り力を育む掃除活動について
12:15	研究会全体のまとめとお礼 フォーラムのご案内

<テーマディスカッションの内容>

テーマ : 学校掃除を通して「段取り力」を身につける具体的手法とは

2. 段取り力を育む掃除活動案について

段取り力を育む活動のサンプル案を提示。

第3回例会で先生方からいただいたアイデアを受けて、事務局でまとめた「掃除時間を通して段取り力を育む活動」のサンプル案を提示して、プロジェクト型活動の構想を紹介する

段取り力を育む掃除活動案 「学校ピカピカプロジェクト」	
対象学年: 小学校 6 年生	
	指導内容
主体的活動を促すための仕掛け (導入活動)	<ul style="list-style-type: none"> ・校長先生からの依頼や、クラス対抗コンテストなどによる課題提示 ・自分たちが学校をきれいにしよう」という気持ちに気づかせる 15分の掃除時間やHRを利用して、現状を理解する活動 活動案①身近な汚れに気づかせる <ul style="list-style-type: none"> ・机みがきに挑戦(カリキュラムより)(普段から使っている机はこんなに汚かった!) 活動案②学校の汚れに気づかせる <ul style="list-style-type: none"> ・担当区域の汚れ&普段見ない場所の汚れ探し(改めて見るとこんなところも汚れているんだ!) 活動案③掃除道具を見直す <ul style="list-style-type: none"> ・学校の掃除道具調査(学校には道具がこんなにある、こんなに壊れている!) 活動案④掃除方法を見直す <ul style="list-style-type: none"> ・どんな掃除道具、掃除方法をしているか見直す(無意識だった掃除、本当にこれでいいのかな?) 活動案⑤どうして掃除をするのかについて知る(掃除って本当はなんで必要なんだろう?) <ul style="list-style-type: none"> ・ダスキンカリキュラムの利用
段取り力を育む基本パターン	考える <ul style="list-style-type: none"> ・学校の現状を理解した上で、学校をきれいにするためにはどうしたらいいかを考える HR や授業時間を1時間利用して、計画を立てる 活動案⑥学校ピカピカにするための計画をたてる <ul style="list-style-type: none"> 1: 下級生への告知活動を行う、2: ポスターを作る、3: 役割分担表を作る
	実行する <ul style="list-style-type: none"> 計画したものを掃除時間に実践する 活動案⑦2週間に1回見直してみる <ul style="list-style-type: none"> ・2週間に1回、ピカピカプロジェクトリーダー委員会で現状報告とアイデア交流をする

振り 返 る	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返る HRを利用して活動を振り返る 活動案⑧褒めあい会 ・ピカピカプロジェクトの成果発表(ピカピカの現場をみんなで確認)を行い、ほめあい会を実施。 活動案⑨次への展開 ・びかびかプロジェクトの成果から次なる発展案を考える
--------------	---

サンプル案の考え方として、まず課題提示としての依頼型もしくは気づき、意欲を喚起する導入活動を重視し、計画、実践、振り返りと展開していくようにした。

・主体的な活動を促すための仕掛け(課題提示)

例えば学校長からの「学校をもっときれいにしてほしい」との課題提示(依頼)を受けて、活動①～活動⑤を実施する。ここで、掃除について無意識の活動であったことから、意識した活動につなげ、現状分析にしたいと思う。ここでの活動案は15分の掃除時間もしくはHRの時間内で実施することを前提。

・考える

学校の現状を分析した上で「学校をもっときれいにするために」、自分たちできることを考える。掃除道具について意識したグループは、掃除道具をもっと大切に使うための方法を考え計画を立てるだろう。

・実行する

実行することにおいて重要なのが、モチベーションの維持。やっていることだけに満足させない仕掛けや、実行している上で出てくる課題を意図的に気づかせる仕掛けが必要であると考え。そのため、活動案⑦を考えた。

・振り返る

振り返りでは、活動を自分たちで評価し、新たな課題に対してどうしていくかを考えることが必要であると思う。そこで活動案⑧⑨を考えた。

<プロジェクト型、課題提示型についてのディスカッションより>

・小学校A(吹田市)
課題提示は無理があるように感じるがいかがだろうか。それよりも掃除の授業を通して6年生が一番気づきにつながったのは、「きれいの基準には人によって違いがある」ということであった。ここから、「ではどうしたらいいのか?」というように考えるようになった
・小学校B(吹田市)
気持ちの良い環境を作ることが大切。普段の環境を気持ちの良いものにしていけば、子どもにとっても気持ちよく、散らかしても元に戻そうとする。どうやったら片付けやすいのか、教師側が工夫しておくことが重要である。小学校では、教科の学習などがあり、全校で共通理解をすることは難しいであろう。また、掃除が好きなお子が多い1年生では教師からの「綺麗にしよう!」という声がけだけで「うん!頑張る!」になる。集団生活の経験が少ない低学年には、集団で生活するためにはこのようにすべき...的なアプローチも必要だと思う。
・中学校(東大阪市)
中学校では、掃除がそれほど重視されておらず、学校全体で美化のことに取り組むのは難しい。校長先生から課題提示は非常に良いと思う。生徒にとっても、身近な教師よりも、校長先生から「やってみよう!」と言われるほうがやる気になる。実は自分の中学校では校長先生が「ピカピカ隊」をつくり掃除分担できない箇所を生徒と掃除している。コンテストは良いと思う。比較する、競争させるコンテストを現在実施しているが、競争させたくない、とか教室の状況が同一でない中で、させたくないという学年がある。しかし、レベルアップしたことを褒めてあげると、綺麗にしたいと思う子が増える。また、優等生と思われるのが嫌で掃除を一生懸命できない生徒がいるが、コンテストにすることで、堂々と頑張ることが出来るということもわかっている。
・中学校(摂津市)
学校についてよく見てくださっている校務員さんや、その他いろいろな立場の方からのプロジェクト提示も可能と思う。コンテストの危険性としては、荒れている中学校では、競争相手を蹴落とすことも見受けられる。また学校だけではなく保護者もプロジェクトの発案者にしてもよいかもかもしれない。授業時間の捻出としては道徳を活用してはどうか。クロスカリキュラムとして、総合+道徳+掃除時間の複合活動として、教科(家庭科)の一面も残しつつ、各学校独自のカリキュラムを組むことも考えられる

<子どもたちの意欲・やる気についてのフリーディスカッションより>

「考える活動」について
<ul style="list-style-type: none"> ・綺麗にするというイメージを持つことが重要。綺麗な家を見ようちも綺麗にしよう！と思うのと同じ。そこで学校(教室)訪問はどうだろうか。実際に整理整頓ができているある先生の教室を子ども達が見る機会があった。掃除道具箱の前に、掃除の手順が貼ってあったり、どこに何がしまっているかが誰でもわかるようになっていたり、いろんな配慮があった。このようにモデルになる教室を見ることで気づきにつながった。こういったモデル的なものを見ることで、自分たちはどうするか？につながると思う。
モチベーション維持やアップについて
<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動チームを設け、活動写真を撮って校内に貼ったり、取り組みの報告をさせるといいのでは。また、褒めることも必要であろう。いい取り組みを他者の目で評価したり、広報する。何回か短いスパンでの振り返りも効果的であろう。 ・今年、1、3年で、大そうじの時期に家庭で実践しよう！というレポートを書かせた。1年生は嫌々、3年生は受験も控え真面目に取り組む。先輩たちの実践報告…という形で読める形にするのも効果はある。 ・児童は自分たちが場所を決めることや、名前をつけるのが好き。活動を子どもたちに任せて実施させた上で「これでよかったの？」と問いかけることが効果的だった。

<掃除教育に継続して取り組むためには、のフリーディスカッションより>

学年をこえて実施するためには？(必要なツールなど)
<ul style="list-style-type: none"> ・ある学年でここまでできたから次に積み上げていけるか…というそうではない。技術は積みあがっていくけれど、同じやり方なら、それは段取り力につながらない。学期の始めにのみ、掃除の担当場所が決まったらこういう視点で話し合えるが、後は全体の流れに任せたい。 どこが自分たちの合格かというところを明確にもたせることが必要。(低学年は先生からの明確な目標提示が必要かも) ・継続的取り組みを進めるために、発展的なカリキュラムが必要。 ・英語の授業で、3年生になったら君たちはこうなれるよ！というビデオを提示している。掃除にも応用できるのでは？
学校全体で取り組むためには？(メリット、課題)
<ul style="list-style-type: none"> ・朝の読書学習が重視される理由としては活動がシンプルであること。教師は強制しない、評価しないということから4年継続的に実施しており、一定の成果をあげていると評価している。あれこれいろいろあるが、学校全体で取り組むためには <ul style="list-style-type: none"> ・活動がシンプルであること ・予算がつくこと ・教師のほかの教育活動に負担にならないことが重要ではないか。 また、この活動が生活指導、キャリア教育など、全てに絡んでいることを広報していくことが大切かと思う。 ・環境整備の部で、中心になる先生がしっかり機能することが必要では。 ・活動の意義を理解することの重要性を感じる。1年生ではこんな力、2年生では…といったつけたい力があって、学校全体として取り組むに当たっては、管理職にも同じスタンスでいて欲しい。教師の姿が現実はこちらだからできない…では教育ではない。学校全体を巻き込んでこそ、意義があるように思う。
先生方のやる気を引き出すためには？
<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修として職員でトイレ掃除をしてみた。珍しい道具(紙やすり)を使用したことから、非常にやる気を出していた。このように新しい道具を教師自らが体験してみることでモチベーションアップにつながるかも。 ・子どもがやる気になったら先生もやる気になる。軽めに始めていい結果を出せば先生方もやる気になるし、継続しようという気持ちにもなる。教師も児童自身も、掃除の方法は身につけているものという意識がある。ここを改めて見直す必要がある。 ・担任の先生が掃除活動に対してやる気がなかったとしても、教科で教室にやってくる先生から褒められたり、指摘されたりすると、生徒も非常に喜ぶし、担任教師へのフィードバックにつながる